



●平成17年2月19日までの受付分(敬称略)
※この欄への掲載を希望しない人は、届け出のときに窓口へお申し出ください。

結婚 いっまでもお幸せに

夫氏名(地区)	妻氏名(地区)	届出日
濱田 清司(大阪府)	松江 八映(徳島市)	1月5日
片山 幹雄(阿万)	谷田 祐子(福良)	1月8日
亀井 光二(福良)	赤松 美紀(潮美台)	1月20日
前川 正有(八木)	小島 百代(広田)	1月21日
櫻本 恭典(志知)	中山 圭子(洲本市)	1月22日
米倉 光成(櫻列)	岡内菜緒美(広田)	1月27日
中嶋 長己(大阪府)	丹治 薫(西宮市)	1月31日
片岸 君之(尼崎市)	西尾 和美(五色町)	2月2日
北内 智孝(市)	前田 豊積(福良)	2月2日
大西 秀行(賀集)	角所恵美子(櫻列)	2月3日
前田 充康(八木)	奥井ルミ子(神代)	2月4日
正木 雅之(市)	高鍋 礼子(五色町)	2月4日
山越 祥平(加古川市)	前田 千晶(阿万)	2月6日
野口 哲司(八木)	澤田 佳奈(市)	2月8日
池尻 明人(松帆)	山木 希望(洲本市)	2月13日
安藤 太一(潮美台)	新居 裕子(香川県)	2月14日
片山 敬一(京都市)	瀬戸奈津子(滋賀県)	2月14日
畑野 哲也(松帆)	迫田 芳美(大阪府)	2月17日
亀井 茂人(津井)	山岡真規子(松帆)	2月19日
竜門真太郎(市)	落合 美和(福良)	2月19日

●訂正とお詫び
2月広報の「出生欄」の赤ちゃん【管海斗くん】の名前が「海人」になっていました。また、「人口・世帯数」が誤っておりました。正しくは、人口54,763人、男26,432人、女28,331人、世帯数17,961世帯です。訂正し、お詫びいたします。

出生 はじめまして すこやかに

赤ちゃん	性別	保護者	地区	出生日
川上 麻緒	女	喜 浩	津 井	1月16日
塚倉 湧太	男	隆 司	大阪府	1月16日
野村 華那	女	将 司	福 良	1月17日
藤平 風翔	男	一 樹	阿 万	1月19日
西野 颯真	男	貴 俊	洲本市	1月23日
池尻 礼	男	英 明	広 田	1月23日
藤江 未羽	女	知 也	八 木	1月24日
別所 基樹	男	義 則	志 知	1月26日
井上 真心	女	拓 也	倭 文	1月26日
船本 雄月	男	和 正	志 知	1月27日
船本 妃奈	女	和 正	志 知	1月27日
村上 依梨	女	浩 康	市	1月29日
竹田 来未	女	寛	広 田	1月29日
前田 雅翔	男	和 男	松 帆	1月29日
中田 寿々	女	秀 徳	賀 集	1月30日
深井 瞭	男	隆 史	奈良県	1月30日
神吉 史華	女	孝 史	津 井	2月2日
久井 月	女	和 也	大阪府	2月2日
酒林 萌結	女	里 佳	福 良	2月2日
片山 乃愛	女	拓 也	広 田	2月4日
河野 あおい	女	豊	福 良	2月5日
吉田 幸世	女	昌 弘	北阿万	2月5日
中尾 ひめな	女	公 一	阿那賀	2月5日
田中 友菜	女	正 人	賀 集	2月5日
阿部 龍乃進	男	昭 博	阿 万	2月7日
濱口 寛斗	男	直 哉	湊	2月8日
山本 倅史郎	男	憲一郎	八 木	2月8日
村田 有寿	男	雅 信	倭 文	2月9日
藤原 寧々	女	智	櫻 列	2月9日
村上 春留	女	友 幸	伊加利	2月10日

まちな動き

●人口	54,708人
(男)	26,411人
(女)	28,297人
●世帯数	17,962世帯

※平成17年2月1日現在

子育て広場

【開設時間】午前9時～午後1時

■南あわじ市子育て学習センター

みどり(☎44-3008) 開設日:月・火・水・金
せいだん(☎37-3028) 開設日:月・火・木・金
みはら(☎42-7703) 開設日:火・水・木・金
なんだん(☎50-3048) 開設日:月・火・水・金



▼節分には、鬼のお面を作って豆まきをしました(せいだん)

かわゆくば(三つしかつて、三つほめ、五つ教えて人を育てよ)

四月から保育園、幼稚園に入園されるお友だち。楽しみですね。でもお母さんがかまえてしまつて子どもにプレッシャーをかける言葉をあびせていませんか? 「好き嫌いをしていたら保育園にいけないよ」「おしっこ失敗したら友達に嫌われるよ」など。お母さんの心配な気持ちもわかりますが、子どもにとつてはとて苦痛な言葉で、園が楽しい場所ではなくなつて



しまいます。できないことを指摘するのはなく、できるよになつたことをほめてあげましょう。一緒によるこんであげましょう。「認められた」ということがあらたな意欲を育てていくことになると思います。(子育て学習センターせいだん 川西淳子)

「子どもは宝」といいます。それは物が豊かになつても、次世代を担う後継ぎをしつかり育てることができなかったら、家も地域も国も維持発展は望めませんし、時には崩壊していきます。ですから昔から「子どもは宝」と呼び、社会全体で育てることを自明のこととしてきました。しかし、高度経済成長のなかで、日本の家庭・家族は生産の単位から消費の単位へと急激に変質していききました。そして時期を同じにして、地域共同体が崩れ、それにもない子どもは地域社会のみならず育てていくという働きが失われていきました。その結果、子育ての役割が必然的に教育力が低下してきた家庭という場が集約されることになつてしまつたのです。そのような状況のもと、母親に子育ての営みが集中していったことをよく理解して、母親を支援していくことが求められているのです。現在の



南あわじ市でも、子どもたちの幸せを願って、この運動を続けます。登録は青少年育成センターまで

体がしつかり受けとめて、みんな子どもに関わり育んでいく仕事を最優先にして取り組もうではありませんか。

地域のおじさん・おばさん運動

「わたしの子ども」から「わたしたちの子どもたち」へ

青少年育成センター ☎37-3026

「子どもは宝」といいます。それは物が豊かになつても、次世代を担う後継ぎをしつかり育てることができなかったら、家も地域も国も維持発展は望めませんし、時には崩壊していきます。ですから昔から「子どもは宝」と呼び、社会全体で育てることを自明のこととしてきました。しかし、高度経済成長のなかで、日本の家庭・家族は生産の単位から消費の単位へと急激に変質していききました。そして時期を同じにして、地域共同体が崩れ、それにもない子どもは地域社会のみならず育てていくという働きが失われていきました。その結果、子育ての役割が必然的に教育力が低下してきた家庭という場が集約されることになつてしまつたのです。そのような状況のもと、母親に子育ての営みが集中していったことをよく理解して、母親を支援していくことが求められているのです。現在の

子育てを社会的な営みにできないのは、このことです。子育て教育を考える上でぬきにできないのは、このことです。家庭だけで子どもは育たない。家庭が消費の単位になり、核家族が進み、地域共同体が崩れていったなかで、子どもからだと心を育む「場の力と働き」が決定的に低下してしまいました。そして、次世代を育てるといふ本来社会全体の子育ての働きが、若い親たちと教育力の低下してしまつた家庭という場だけが集約されることになつてしまつたのです。「子どもが育つには村中の人が必要だ」というアフリカのことわざがあります。また、わが国の先人は「世間様を育ててもらおう」「親はなくとも子は育つ」と言つて、子どもを後継者として育てていくことを大切にしてきました。子どもたちは幼少期から、地域社会の多くの人々と出会いふれ合うなかで、それを肥やしにして、心とからだを育んできたのです。今日の子どもを取り巻く環境の悪化、凶悪犯罪の多発、不登校、ひきこもり、いじめなどを考えたときに、地域の子どもたちへの無関心が、もろもろの諸問題を助長していると言つても過言でしょう。どうかみなさん! 「地域のおじさん・おばさん運動」に参画し、子どもたちとの心のつながりを作つてほしいのです。「家庭だけでは子どもは育たない」ということを社会全体がしつかり受けとめて、みんな子どもに関わり育んでいく仕事を最優先にして取り組もうではありませんか。